

龍高中殺

龍高星と云う星は習得本能から生まれた知恵の星です。龍高星には「知恵」「改革」「別離」「放浪」等という意味合をもっています。陽から生まれた知識欲はとても激しいものを持っていて、伝統的なものよりむしろ常に新しいものを追い求めますので改革的な性情が強い星といわれています。

この反体制的ともいえる開拓精神は、この星が夢とロマンに支えられた冒険の世界でもあるからで、この夢の実現に消耗す全エネルギーは、精神と人生に放浪の旅を与え、いかなる苦難にも「努力と忍耐」という素晴らしい力で向かうのです。

伝統に縛られない改革の精神は、創造力の豊かさとなり、色彩の世界や文学の世界、あるいは医学（外科）の世界へいざないます。

しかし、不思議なことに地味で暗い世界と、きらびやかな世界とが同居しているのです。

龍高星の思考法は、反体制であり、立体思考という、独特な考え方をもっているのです。

それは、一般的の思考法では、表と裏を観察してものごとを考える労力とそれに要される所用時間内に、龍高星の場合は、表・裏・上下・側面など、立体的に考えることを本能的に考察するのです。

それだけに、龍高星の観察力の鋭さはすばらしく、表面に見えない裏側さへも見透すほどの力があり、その鋭さは十大主星中最大といわれています。

反面、目的が定まらない時は、大変に不安定な面を現し、さらに人を疑いはじめると、どこまでも疑い深くなり、とらえようのない人間性が形成されるのです。

この龍高星が中殺されますと、この星の本質通りに、冒険とロマンを志向し、新しいことをつくり出して行くのですが、結果として本人の意志とは違うものになります。

龍高星中殺者は、自分を生かすために創造と破壊をくり返すのです。それも非常に集中力があって、実業家であれば、新しいアイディアを生み出し、実行力に恵まれた集団を形成して、目覚ましい進展をみせます。しかし、結果が自分の意にそぐわない…となると放り出されか、自分の手で潰してしまうかの道を選ぶのです。普通の人ならば、後継者を選び時分は一線から引き下がるのでしょうか、龍高中殺者には引退するとか、後退するという選択は先ずありえないのです。

自分の手で育てて来た集団を、龍高中殺者自らが、その集団を破壊したり、放り出してしまったりするものですから、従ってきた人たちに大きな不信を与えます。しかし、龍高中殺者にしてみれば、それが生きる上で必要な手段なのです。

孤独に強く、いかなる苦難にも耐えていこうとする「努力と忍耐」が変質をして、さらに力を増し、たとえ周りの人たちからの信用を失おうとも、けっして恐ろしくはないのです。また、精神的安住がなくても、不安定さを表面には見せることもなく、たとえ配偶者や親子間が不仲であっても龍高中殺者のハンデにはならないのです。

龍高中殺者は、新しい事業なり・研究開発を始めるにあたっても、周囲の人たちからの援助を乞うようなことはしません。その意味では（龍高中殺者は）天性の独立精神の持ち主ともいえるのです。

龍高中殺者には、自分の人生は、自分で切り開いて行かなければならない宿命があるのです。

龍高星は人間関係に置き換えますと「上司」「偏母」でした。ですから龍高中殺者は、上司に振り回されがちになります。

また家庭においては、偏母に振り回されます。（偏母→継母、配偶者の母親など）